

出題分析		
試験時間 90分	配点 150点	大問数 5題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]	
<p>【概評】</p> <p>大問数は昨年に引き続き5題で、長文読解問題が2題、会話文問題が1題、語彙問題が1題、和文英訳を記述式の空所補充によって完成させる問題が1題という構成であった。大問5の形式が英作文から変更となったほか、大問2の小問として、本文の著者へのインタビューへの空所補充問題が加わった。また、昨年出題された発音問題の出題は無くなった。大問1や大問4は理工学部らしく、理系分野からの出題であったが、全体を通して長文読解、会話文問題、空所補充と、様々な分野・形式を含む問題が出題された。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	長文読解問題 「嗅覚に関する4つの誤解」	やや専門的な内容の英文を題材として、類義語選択問題、複数の選択肢から対応する内容を選ぶ問題、節のタイトルを選ぶ問題、内容一致問題の計19問が出題された。昨年出題された発音問題の出題は無かった。類義語選択問題は副詞を含む語句を問うものが多く、解答には高い語彙力が要求された。	標準
2	長文読解問題 「無為という現象について」	類義語選択問題、空所補充問題、語句整序問題、文補充問題の計17問が出題された。本文の語数は昨年と比べて減少したが、今年は[5]がインタビューを読んだ上で空所補充問題に解答する形式となったため、全体的な分量は昨年とそう変わらない。英文の内容は抽象度が高く、難解であった。	難
3	会話文問題 「ある男女のやり取り」	例年通り男女の人間関係をめぐる英文からの出題。[1]の会話からはイディオムの意味を選択する問題が、[2]のメッセージからは空所補充問題が、計12問出題された。問われる表現やイディオムのレベルは高い。登場人物の設定や関係性が過去の出題と共通しているため、過去問演習を行っていた受験生は状況を把握しやすかったであろう。	標準

設問別講評			
4	語彙問題	空所補充問題が 5 問出題された。空所を含む英文は最長で 3 行程度と短い、内容は専門的である。文法や単語の知識のみでは解けない問題も含まれており、解答には科学にまつわる知識を踏まえたうえで、英文の内容を把握する必要がある。	標準
5	和文英訳完成問題	ギリシア神話のスフィンクスの謎かけを題材に、和文英訳を空所補充で完成させる問題が 1 問出題された。要求される文法・構文のレベルは標準的だが、語句・語法については高いレベルの知識が求められた。	やや難
合格のための学習法			
<p>慶應義塾大学理工学部では、難易度の高い専門的・抽象的な内容の英文が出題されることが多い。そのような文章を読み慣れていないと、解答にかなりの時間を要するため、日頃から様々な分野の内容の長文に触れ、また同時進行で語彙力の増強に努めてもらいたい。形式としては会話文問題や語彙問題、和文英訳に近い形式の問題といったように年によって出題形式が様々である。来年以降も現在の傾向が続くとは限らないため、様々な形式に対応できるよう、バランスよく学習を進めておくことが重要だ。過去問で出題形式に慣れることに加え、時間に余裕があれば他大学の問題を解き、記述力を養成するとよいだろう。</p>			